

2026年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（後期）

| | |
|-------|--|
| | |
| 試験科目名 | 専門試験（映像・現代文化論） |
| 出題の意図 | <p>問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。</p> <p>問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。</p> <p>(A) 日本近代文学におけるモデル小説とプライバシーに関する問題</p> <p>(B) 映像作品にあらわれる「まなざし」と「欲望」および「アイデンティティ」のあり方に関する問題</p> |

2026 年度
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 映像・現代文化論 全 9 枚のうち 1 枚目

この試験では、試験問題 9 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

- ・ 解答は問題 I と問題 II について、別々の解答用紙に記入すること。
 - ・ 問題 II は、A・B の中から一つを選んで解答すること。
-

問題 I

次の 1～6 の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各 400 字程度）。

1. 日本近代文学における「南洋」表象について、作家・作品名を挙げて説明せよ。
2. 新心理主義の文学の特質について説明せよ。
3. 東日本大震災をテーマにした文学の特質について説明せよ。
4. 「日活」という映画会社が戦後にたどった推移について、具体的な人物や作品、ジャンルの名前を挙げて説明せよ。
5. ロベール・ブレッソンの演技指導・演技論について、具体的な作品場面を挙げて説明せよ。
6. レフ・マノヴィッチは『ニューメディアの言語』において、「デジタル時代の映画」をどのようなものとして論じているか、説明せよ。

問題Ⅱ A

次の文章は、日比嘉高『プライベートの誕生——モデル小説のトラブル史』（新曜社、2020 年）の序章「モデル小説とプライベート」の一節である（設問の都合上、省略した箇所がある）。(1) この文章の内容を、要約しなさい（250 字程度）。(2) 下線部「小説の言葉のもつ〈境界侵犯〉の能力」について、具体的な作家・作品を挙げて論じなさい（800 字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 日比嘉高『プライベートの誕生——モデル小説のトラブル史』新曜社、2020 年、20-27 頁

問題Ⅱ B

次の文章は、竹村和子『彼女は何を視ているのか——映像表象と欲望の深層』（作品社、2012年）の一節である（設問の都合上、省略した箇所がある）。（1）この文章を要約しなさい（250字程度）。

（2）この文章を踏まえて、映像作品にあらわれる「まなざし」と「欲望」および「アイデンティティ」のあり方について、具体的な事例を挙げながら論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 竹村和子『彼女は何を視ているのか——映像表象と欲望の深層』作品社、2012年、76-82頁

